

Title	サプライ・プロセスの改善による生産企業の市場適合-飲料メーカーT社の事例-
Sub Title	
Author	松岡治朗(Matsuoka, Jirou) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1380号 その他:一部のみ
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1380">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1380</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## サプライ・プロセスの改善による生産企業の市場適合 —飲料メーカーT社の事例—

本研究は、最終顧客である消費者にその製品の選択を受けなければ生産企業の存続はない、しかし、消費者に製品が届くまで(サプライ・プロセス)には複数の企業が存在しているため消費者ニーズが見え難い。このため生産企業の活動は、自社だけの視点ではなくトータル・サプライ・プロセスの一構成員としての立場から、消費者ニーズに応えるための活動でなければならぬという認識に基づき、トータル・サプライ・プロセスと消費者ニーズの視点から生産企業の活動を含むサプライ・プロセスの改善とその設計についてのアプローチを示したものである。

その方法としては、TLA(トータル・ロジスティックス・アプローチ)の考え方を応用し、生産企業における一般的な貢献方策体系図と実際の生産企業における活動レベルの貢献方策体系図そして実際の生産企業における一般レベルの貢献方策体系図の3つを作成し、それを比較することで3つの問題領域を設定した。

生産企業における貢献方策体系図は、生産企業をその現象面だけを捉えた状態推移図から状態推移の差を埋める基本変換を導き出し、基本変換を消費者ニーズと対応させることにより、消費者ニーズに応えるための基本変換を実行する一般的な活動を設定し、その活動と消費者ニーズとの関係を活動、目的、貢献方策に纏めることで作成した。また、実際企業の貢献方策体系図は、実際の企業活動を分析することで作成できるので、本研究では、飲料メーカーT社を研究対象企業としてインタビューを通しその活動と目的をリストし、T社における活動レベルの貢献方策体系図と一般レベルの貢献方策体系図を作成し、3つの貢献方策体系図の比較によりT社における改善すべき26個の問題領域を設定した。